

インフルエンザ定点（小児科定点を含む）

インフルエンザ 報告数69件で、8月の32件から倍増しています。今年になり7月の4件が最小で、報告がなかった月はありません。

小児科定点

（全体傾向）

報告総数3,766件（前月比0.99、前年比1.24）でした。前月比は変わらず、前年同月やや少なくなっています。伝染性紅斑を除けば全体的に例年と同様の経過をとっています。

（疾患別傾向）

1. RSウイルス感染症 : 報告数987件、前月比1.4、同年同月比1.5と一昨年と昨年の中間の推移です。この数年は9月が報告のピークです。冬から夏の疾患になったようです。水俣から97件（定点あたり48.5）、菊池222件（同44.4）、有明157件（同31.40）の報告が目立ちます。山鹿8件、阿蘇0件、御船12件、天草18件以外は、各地区とも定点当たり二桁の報告があります。2歳までは各年齢層で3桁の報告で、3歳でも62件とほとんどが低年齢からの報告ですが、7歳までは報告があります。
2. 咽頭結膜熱 : 報告数91件（前月比0.6、前年比1.7）と一昨年と昨年の中間の推移です。宇城からの報告が34件（定点あたり8.50）、と多く、菊池17件（同3.40）、天草18件（同3.00）が目立ちます。1歳～4歳を中心としています。
3. A群溶連菌咽頭炎 : 報告数266件（前月比0.8、前年比1.2）です。2月をピークとして減少傾向は続いています。いつもと同じく菊池64件（定点あたり12.4）に多く報告があります。宇城27件（定点あたり6.75）、有明29件（定点あたり5.80）に多いようですが、山鹿（0件）、阿蘇（2件）、水俣（1件）以外からは、二桁の報告が有ります。いつもと同様に3～6歳を中心としています。6カ月以下を除き全年齢層から報告があります。
4. 感染性胃腸炎 : 報告数1,093件（前月比1.0、前年比1.0）と例年並みの推移です。報告数は多いのですが年間で最も少ない時期を例年通りに推移しているようです。水俣の定点あたり2.00（報告数4件）、阿蘇3.50（報告数12件）を除けば、各地から二桁～三桁の報告数があります。いつもと同じく菊池285件（定点あたり57.00）が多く、有明235件（同47.00）、御船107件（同35.67）に多いようです。少ないのも同じく、水俣4件（同2.00）、阿蘇7件（同3.50）です。5歳以下の年齢区分では、ほぼ三桁の報告があります。
5. 水痘 : 報告数35件（前月比0.9、前年比1.3）と、昨年12月のピークから緩やかではありますが減少してきています。定点当たりの報告が1.0以上あるのは、菊池8件（定点あたり1.80）、有明8件（同1.60）と、八代5件（同1.25）、宇城4件（同1.0）でした。年齢は0歳から19歳までと幅の広い流行ですが、4歳から5件報告が有り、2014年10月から定期接種になっている年齢からも未だに報告があるということで、各地区での接種率の検討が必要でしょう。山鹿・阿蘇・水俣からの報告はありませんでした。
6. 手足口病 : 報告数342件（前月比0.7、前年比1.5）と、大きな流行と感じましたが、報告数のピークが例年よりひと月早まっただけで、いつもとあまり変わらない推移で減少しています。9月の時点で多いのは、有明108件（定点あたり21.60）です。有明以外で定点当たり二桁に近い流行があるのは、菊池49件（同9.80）で、他の地区では、阿蘇（報告なし）を除き定点当たりでは一桁の報告でした。1歳110件を中心とし6か月以降7歳まで、ほぼ二桁の報告があります。

熊本県保健環境科学研究所からの報告によれば、手足口病から分離されるウイルスは、今年は、Coxsackie virus A6 とHuman Herpesvirus 6の二つで検出例のほとんどでしたが、他にも種々のウイルスが分離されています。

7. 伝染性紅斑 : 報告数113件(前月比1.7、前年比37.7)と、昨年末からの流行がピークを迎えつつあるようです。報告数と定点当たりの報告が多いのは、有明33件(定点当たり6.60)、熊本43件(同2.68)で、菊池が15件(同3.00)とつづいています。阿蘇からの報告がない以外は、少数の報告が県下からあります。数年ぶりの流行として今後も推移を注意する必要があるようです。
8. 突発性発疹 : 116件(先月比0.8、前年比1.0)と、ほぼ例年通りの推移です。菊池26件(定点当たり5.20)、有明15件(同3.00)からが二桁の報告です。阿蘇・御船からの報告はありませんが、県下各地から一桁ですが、報告があります。
9. ヘルパンギーナ : 報告数352件(前月比0.8、前年比0.9)で、例年通りの推移と思われます。天草50件(定点あたり12.50)、菊池58件(同11.60)、八代41件(同10.25)、有明51(同10.20)に多いようです。また1歳を中心として、6か月から5歳までの報告が多いようです。
10. 流行性耳下腺炎 : 報告数55件(前月比0.5、前年比1.10)と、大きな流行ではないのですが、6月より50~60の報告が流行が続いています。宇城40件(定点当たり10.00)が突出しています。他の地区では、熊本・有明4件、八代3件、菊池・天草2件(同1.4)の報告があります。山鹿・阿蘇・御船・水俣・人吉からの報告はありませんでした。6か月から14歳すべての年齢層からの報告があります。予防接種による感染防止が期待できますので、定期接種でありませんが難聴の件も含めて、引き続き啓発が必要と考えます。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎 : 報告はありません。
2. 流行性角結膜炎 : 報告数110件。前月比0.9、前年同月1.1とほとんど増減はありません。熊本90件、菊池2件、有明18件と今月も有明地区からの報告が通常よりも目立ちます。年齢別では30~49歳にピークが見られますが、乳幼児層、高年齢層の発症にも注意が必要と考えます。

STD定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が13医療機関から16医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症 : 報告数60件(前月比1.0、前年同月比1.3)で、前月比では1件多く、前年同月比では増加しています。男女別は、男性、女性とも30件と同数でした。年齢別では、男性は20~29歳に17件と多く、女性も25~29歳に13件と多く見られています。地区別は、熊本が47件と多く、次いで御船、有明に各4件、八代3件、宇城2件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症 : 報告数24件(前月比0.9、前年同月比1.4)で、前月比は減少、前年同月比は増加しています。男女別は、女性に15件と多く見られました。年齢別では、男性は20~69歳と幅広く見られ、女性も20~70歳以上と幅広く見られています。地区別は、熊本が17件と多く、次いで御船、宇城に各2件、菊池、八代、有明に各1件でした。

3. 尖圭コンジローマ :

報告数は12件(前月比1.7前年同月比1.0)で、前月比では増加、前年同月比では同数でした。男女別は、男性に10件と圧倒的に多く見られています。年齢別では、男性は20~39歳に9件と多く見られています。女性は15~19歳、30~34歳に各1件見られています。地区別は、熊本に11件と圧倒的に多く、次いで菊池1件でした。

4. 淋菌感染症 :

報告数は13件(前月比0.8、前年同月比1.3)で、前月比は減少、前年同月比では増加しています。男女別では、男性に12件と圧倒的に多く見られました。年齢別では、男性は25~39歳に9件と多く見られ、女性は20~24歳に1件見られています。地区別は、熊本11件と圧倒的に多く、次いで宇城2件でした。

基幹定点

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 :

報告数は21件(前月比:1.0、前年同月比:1.5、男女比:15/6)で横向き推移にあります。熊本(8)、阿蘇・人吉・有明地区(3)、山鹿・菊池・八代・水俣地区(1)と広範囲に認めます。年齢分布としては1-4歳・55-59歳・65-69歳(1)、60-64歳(2)、70歳以上(16)を中心に高齢者で集中して多く検出されました。

▼昨年よりやや多めの報告数で推移しています。

2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 :

報告数は4件(前月比:0.8、前年同月比:-、男女比:1/3)で横向き推移にあります。熊本・有明地区(2)でした。年齢分布としては10-14歳(1)、70歳以上(3)でした。

▼例年並みに推移しています。

3. 薬剤耐性緑膿菌感染症 :

報告数は0件(前月比:-、前年同月比:-、男女比:-/-)で報告はありませんでした。

▼例年同様に散発的な報告のみになります。

(週報分)

1. 細菌性髄膜炎 :

報告数は0件(前月比:-、前年同月比:-)で報告はありませんでした。

▼引き続き例年並みに推移しています。

2. 無菌性髄膜炎 :

報告数は1件(前月比:0.1、前年同月比:1.0)で減少に転じました。熊本地区(1)でした。年齢分布は10-14歳(1)でした。

▼例年同様に推移しています。

3. マイコプラズマ肺炎 :

報告数は2件(前月比:1.0、前年同月比:1.0)で横向き推移にあります。熊本地区(2)でした。年齢分布は1-4歳・10-14歳(1)でした。

▼昨年同様に低値横向き推移をしています。

4. クラミジア肺炎 :

報告数は0件(前月比:-、前年同月比:-)で報告はありませんでした。

▼例年同様に散発的な報告のみになります。

5. 感染性胃腸炎(ロタウイルスによる) :

報告数は0件(前月比:-、前年同月比:-)で引き続き報告はありませんでした。

▼例年同様にこの時期の報告は減少傾向にあります。

届け出対象感染症

1類感染症	: ありませんでした。	
2類感染症	: 結核	18件
3類感染症	: 腸管出血性大腸菌感染症	4件
4類感染症	: カルバペネム耐性腸内細菌感染症	2件
	Dengue熱	1件
	マラリア	1件
	レジオネラ症	5件
5類感染症	: 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
	侵襲性肺炎球菌感染症	3件
	梅毒	7件
	百日咳	27件
	風しん	1件